

研究区分	学部研究推進
------	--------

研究テーマ	海外授業及び海外フィールド・ワークの実践（継続）				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	小針 進
	研究分担者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	奈倉 京子
		所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	米野 みちよ
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	堀内 賢志
		所属・職名	国際関係学研究科・助教	氏名	小泉 佑介
	発表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	小針 進

講演題目	コロナ禍における海外との連携教育
------	------------------

研究の目的、成果及び今後の展望	<p>【目的】「国際社会で活躍できる人材の育成を目指す」や「21世紀型地球市民としての優れた人材の育成を目指す」といった目標が序文で明記されているのが、国際関係学部のアドミッション・ポリシーである。それでも、実践的な海外授業を実施する科目が国際関係学部には設定されていない。新鮮な国際感覚の獲得、直に触れる国際関係、異文化理解、多文化共生体験、危機管理・対応、留学・海外就職先の選択、習得言語の実践等において、海外授業の必要性から継続的に実施してきたのが、このプロジェクトである。海外協定校等との合同授業、各自のテーマに即したフィールド・ワークを学生と共に行うことで、これらを養うことを目的としたきた。</p> <p>【成果】2022年度は、新型コロナウイルスの感染拡大が徐々に収まってきたものの、出国しづらい状況が続いたため、海外渡航を伴わない形式での海外との連携教育を行った。2021年度と同様に、海外協定校等とのオンラインによる合同授業、地域研究の専門家、海外事業にかかわる実務者などによる対面またはオンラインの講演やワークショップを企画した。</p> <p>具体的には、東西大（韓国）とのオンラインによる日韓学生合同セミナー、多文化共生事業にかかわる高校教員からの卓話、陶芸家による講演、蘭州大学とのオンラインによる日中学生合同ゼミ、フィリピン大学准教授による特別授業、静岡市多文化共生スクエアでの実習、東南アジア出身の看護師・介護士らに関するオンライン・コンテンツの作成と発信、日露経済協力関係者（日本人）の特別講義とディスカッション、インドネシア映画の上映、在日外国人研究に関する学生らのデータ収集・分析への支援などを行った。</p> <p>いずれも、3年にわたるコロナ禍で培った経験を生かした教育形態であり、教育的な効果は大きかったと言ってよい。ただし、2023年3月に卒業した4年生は、ゼミ活動の2年間ですべてコロナ禍であり、海外での直接的な体験・経験ができなかったことを、残念だとする声が彼ら・彼女らから多く聞かれた。</p> <p>【今後の展望】国際関係学部のアドミッション・ポリシーを具現化させるうえで、日本国内で実行してきた状況のような事柄は有効であることは間違いない。それでも、海外での直接的な経験があったほうがよいことは論をまたない。感染症が収まりつつある新年度には、それを実現させたい。</p>
-----------------	--